

授業科目	キャリア開発					実務家教員担当科目	-				
単位	1.	履修	選択	開講年次	1	開講時期	後期				
担当教員	藤田 稔子										
授業概要	短期大学部保育科を卒業して社会にでる皆さんは、様々な可能性を持っています。固定観念にとらわれず、自分らしく人生を歩み、その中で、この短期大学部保育科で学んだことを土台にしてより発展的に社会人として、女性として生きて欲しいと願います。その第1歩として、自分自身を見つめ、分析し、適性を見出していきます。次のステップとして、どのような世界があるのかを、関心が似ている仲間と組んで調べ、理解を深めていきます。また、その学びを発表しあいシェアしていきます。										
授業形態	講義			授業方法	ディスカッション グループワーク プレゼンテーション						
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 自己分析を行い、自分の傾向をすることができる。 自分の適性に応じた行動を考えることができる。 様々な進路があることを理解できる。 社会人として最低限求められる数量的思考、論理的思考の基礎となる考え方が理解できる。 卒業後のキャリアの広さ気付き、自身の可能性を感じるすることができる。 										
理想的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 自己分析を行い、自分の適性を見出すことができる。 自分の適性に応じた行動目標を立てることができる。 様々な進路があることを知り、自分で調べることができる。 社会人として最低限求められる数量的思考、論理的思考を用いることができる。 卒業後のキャリアの広さ気付き、自身の可能性を感じ、ライフプランを立てることができる。 										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）				備考						
試験											
小テスト											
レポート	50%				課題レポート2回（10点×2）、最終レポート（30点）						
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物	50%				各回のコメントシート						
その他											
カリキュラムマップ（該当DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	CH10701J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
（予習）シラバスで次回の内容を確認したうえで、必要な事前準備をしてきてください （復習）各回で課題等を提示します										4	

授業計画	
第1回	<p>テーマ：ガイダンス</p> <p>本科目の概要と授業進行の説明をします。受講生それぞれとの双方向のやり取りの方法を決めます。</p>
第2回	<p>テーマ：自己分析を試みる</p> <p>ワークシートを用いて、自分自身を分析していきます。その結果、自分自身の「強み」を見出し、キャリアにつながるものを見出していきます。</p>
第3回	<p>テーマ：卒業生の姿から学ぶ</p> <p>短大女子の就職状況、本学卒業生の卒業後の姿等を説明します。自分自身が関心がある世界を書き出してみます。</p>
第4回	<p>テーマ：広い世界を知ろう</p> <p>関心がある世界について調べ、クラスでシェアします。(例：海外で働く、起業する、等)</p>
第5回	<p>テーマ：広い世界で羽ばたくために必要なもの</p> <p>第4回で見出した内容を実行に移すために必要な知識、技術、準備は何かをクラスでディスカッションします。</p>
第6回	<p>テーマ：一般企業採用試験とは</p> <p>代表的な就職筆記試験「SPI」「玉手箱」「GAB」を知り、実際の問題に取り組んでみる。</p>
第7回	<p>テーマ：公務員試験とは</p> <p>中級、初級公務員試験について知り、一般知能の問題に取り組んでみる。</p>
第8回	<p>テーマ：まとめ</p> <p>これからの保育専門科目の学びや短大でのボランティアやアルバイトをはじめとする様々な活動を通して、自分自身の今後の姿を考え、その道に進むための計画を立てます。</p>
テキスト	各回、プリントで配布します。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	必要に応じておすすめの本や問題集をご紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	<p>採用試験問題等については、正答解説を付けて返却します。</p> <p>レポートについては、内容によってコメントをして返却をいたします。</p>

学生への
メッセー
ジ・コメ
ント

本科目の内容は、個別性の高いものと認識しています。そのため、忌憚なく相談できる体制を第1回目の時に受講生と担当教員の間で個別に決めます。授業時間内だけでなく、いつでも対応いたします。